（様式1）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0571213958		
法人名	社会福祉法人　こまくさ苑		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　田沢の家　1号館		
所在地	秋田県仙北市田沢湖生保内字上清水698		
自己評価作成日	令和2年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142－1
訪問調査日	令和2年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

それぞれの利用者様ができることを行っていただき、活き活きと暮らせるようにしています。
利用者様、職員が一緒に生活を送り、明るく、楽しい時間を提供いたします。
個人の想いを聴き、寄り添いながら、安心できるホームで過ごしていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域行事の中止や面会の制限等、今までとは違った生活になっていますが、コロナ禍にあっても利用者が混乱なく過ごすことができるよう感染防止を図りながら工夫して対応し、楽しく生活できる環境づくりに取り組んでいます。各ユニットが独自に理念を設定してその言葉の意味を大切にして利用者と接しており、利用者の様子からその行動に対する職員の適切な対応を感じ取ることができます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに〇印			項　目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに〇印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの			〇	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		〇	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			〇	4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	〇	1. ほぼ全ての利用者が	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			〇	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が	64	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			〇	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			〇	3. 利用者の1/3くらいが
		〇	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	〇	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			〇	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が				
		〇	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と、ホーム独自の理念を職員間で共有できるよう掲示している。それぞれに近づけるよう努力しているが、つなげない部分もみられる。	職員がつくった理念であることから、状況に応じて振り返る機会をつくって理念の意味する内容を確認し、利用者に寄り添いながら実践に繋げていけるよう取り組んでいます。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や法人内の施設からの誘いで等でつながりを持てるようにしていたが、今年は新型コロナウイルスの影響で交流できていない。ホームで独自の計画をたて、ホーム内でできることを利用者様と共に行っている。	新型コロナウィルスの影響で地域や法人の催しが中止され、幼稚園児、中学生とも交流できない状況ですが、運営推進会議で地域と関わりが持てるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議は、地域の方々が来てくださるため、色々な資料の提供や質疑応答にて伝えられるようにしている。 法人の広報を定期的に作成し、配布してつながりをもつようにしている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、地域の方々からの意見、要望等をいただき、職員間にも伝え、サービス向上に活かしている。	会議メンバーに資料を送付してホームの取り組みを伝え、書面上で意見交換しています。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター等が中心となる勉強会や交流会に参加。互いの情報交換にて関係性を築くようにしている。職員が民生委員をやっていることもあり、情報共有と相談等ができるように取り組めている。	包括支援センターを通じてイベントに協力したり、勉強会に参加して情報収集しており、連携が図られています。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、拘束のないケアを行っている。 利用者様が不快や不安のないように過ごせるよう話し合いながら取り組んでいる。	勉強会を通じて職員の理解と意識向上に繋げ、身体拘束のないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていない。 職員間でミーティング等で話し合いながら防止に努めている。特に声のトーンや言葉遣いには気をつけるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、勉強する機会がなく、利用者様の中にも今のところ該当例がない。必要が生じた際には制度の活用ができるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約等を担当しており、利用者様、家族様に説明、理解を十分に得ている。都度、不安や心配事がある場合は、話を聞き解決できるよう管理者へ報告している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置しているが利用する人がいない。 要望等あれば、管理者、ケアマネが対応し、報告にて、職員間で検討、運営に反映できるようにしている。	利用者の表情や様子から意向を感じ取れるように日頃から心がけています。家族との面会時や電話で、また、モニタリング報告の際に意見記載欄を設けて送付し、意見の引き出しに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングで意見を出し合い、管理者へ提案したり、直接上司と話すこともある。	話しやすい環境にあり、意見や情報を共有して対応策等を話し合っており、管理者を通じて法人本部に伝えるシステムも構築されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が来ることは少ないが、職員の努力や勤務状況、やりがいのある職場環境、条件については、もっと良くなってほしい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら研修や勉強会等の機会はあるが、新型コロナウイルスの対応を考えれば、なかなか参加することができない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作り、勉強会はあるが参加できていない。やはり新型コロナウイルスの影響で、同業者との交流もほとんどできない。相互訪問も同様。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の利用者様の調査票や家族様からの意見を聞き、ケアマネがまとめケアプランをたて、職員に伝えることで、その方の生活に反映されている。利用者様の意見要望も聞き、不安のないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの他に、職員同士で共有できるよう、利用者様、家族様の声を聞きながら、より良い関係になるよう努力している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様が何でも話し合えるよう、意思を尊重をしながら、共に生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診の協力をもらいながら、電話で家族と話ができるよう、つながりをもっていただいている。外出制限もあり、その中で職員対応の受診時は、きちんと家族様にも報告を行い、本人を共に支えあえるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で、なかなか面会や外出ができず、来る方もなかった。面会ができるようになったが、制限がある中での面会となっている。	家族のさまざまな協力がある他、地域や法人の行事で馴染みの関係がつくられています。感染防止対策により外部からの訪問者を制限しているものの、電話の取次ぎ等を行って関係が途切れないよう支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が互いに話をしたりできるような座席の配置にしたり、トラブルのないよう行動や言動に注意しながら、職員が間に入り会話を取り持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談等はないが、いつでも何かあったら相談には応じるように話している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で、その人の思いや希望を聞き、可能な事から一緒に考え、検討し、その人らしい生活ができるよう努めている。	できる限り会話できる時間をつくって思いを引き出し、変化を見逃さないよう努めています。情報を共有して協議し、日常のケアに反映させています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から情報を提供していただき、一人一人の生活歴を把握しているが、馴染みの暮らし方としては難しいところはあるが、近づけるよう努力していきたい。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の気持ちに合わせ、一人ひとりできることを無理の無いように過ごしていただいていると思う。また、体調の変化にも気をつけ環境づくりにも努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が暮らしやすい環境作りや援助ができるよう、意見や思いを聞き、ケアカンファレンスやミーティング、朝の申し送り等で、一人ひとりにあわせた計画を作成している。	担当職員以外の意見も踏まえ、現状に即した介護計画を作成しています。家族の意向を確認し、本人の思いも反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やバイタルチェック表、申し送りにて情報を共有したり、職員ミーティング等で意見交換を行い、見直しをしたりしながら実践につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスが発生前は、地域行事や、学校行事等へ参加。ボランティアも受け入れていたが、今は、ホーム内での安全な生活ができるように努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診ができており、家族にも都度、受診時の報告をしたりしながら、良い関係が築けている。 また、法人内の看護師から、状態についての相談、助言をもらっている。	本人、家族の希望に沿って対応しています。包括支援センター主催の勉強会を通じて薬局と良い関係が構築され、医科、歯科の協力医とも連携が図られています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個別のバイタルチェックや介護記録にて、毎日の体調の管理ができているが、隣接する老健の看護師にも助言もらえるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、状態確認ができるよう連絡したりしながらできていると思う。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は家族様と相談をしながら、その後の対応について検討している。 要望によっては、法人内の施設の利用の対応も可能にしている。	ホームでの生活が困難になった場合には法人内の他サービスへの移行相談に応じる等、状態変化に応じて話し合い、次の支援に繋げています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の実施は、新型コロナウイルスの影響でできていないが、施設内での訓練を実施。緊急時や急変時の対応のフローチャートの確認を行い、話し合いをしながら確認している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練が年に2回以上あり。避難訓練を行ったり、災害時のフローチャートの確認、隣接の施設からの協力等得られるようになっている。	広い敷地の中に老健等の他サービスの事業所があることから、地域の避難場所として提供できることを運営推進会議で伝えており、法人内で協力体制をとって災害に備えた訓練を行っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の話を傾聴し、その方の意向に沿った対応、声かけをし尊重している。	理念に基づき、一人ひとりを尊重してその人に合った対応を心がけ、笑顔が引き出せるように接しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしやすいような言葉かけを行い、気軽に声かけていただけるよう信頼関係を築いている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちや、身体状況に合わせた対応を心がけている。また、決まりではなく、日課となるような、職員都合の対応をしないように心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を着れるよう入れ替えを行ったり、施設の床屋を利用。自分のつけたい化粧品等の購入等の支援をしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる楽しみ、見る楽しみ、季節に合った食材選びを行い、行事食やお茶会等で楽しんでいただけるよう、また、一緒に作業したりしている。	準備や後片付けを手伝っていただき、利用者の嗜好を取り入れて献立を決めたり、お弁当を注文したり等、楽しみに繋がる支援が行われています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録している。 個々にあった食べやすい大きさに切ったり、軟らかく煮たりして提供している。 アレルギーや好みに対して、職員間で把握し、気をつけている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の他、毎食後のうがいの習慣ができている。義歯の消毒を毎日行っている。 必要に応じて、訪問歯科診療をお願いし、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な誘導を行っている。一人ひとりの排泄に合わせ、トイレでの排泄ができている。	布パンツのみの方もおり、一人ひとりの状態をチェック表で管理してトイレでの排泄を支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の記録を行い、個々にあった下剤の内服や食事のメニューの工夫と運動で自力排便できるよう心がけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっており、その中で個々の希望で入れるように対応。安全に気をつけている。	一番風呂や連日の入浴希望にも応じ、週2回は入浴できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理せず日中の活動に参加したり、体調に合わせ休息していただいている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にカルテに処方箋を入れてある。用法や副作用についてはいつでも見れるよう、また、体調に変化があった場合の医療関係者への相談もしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできるような作業を行っていただき、役割をもって生活を楽しんでもらっている。 気分転換を兼ね、散歩、ドライブ、外でのお茶会をしたり、一緒にゲーム等を楽しんでいる。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外部との接触は新型コロナウイルスの影響でできていないが、ホームの中での食事会やお茶会、施設周辺の散歩やドライブ等をしたりしている。 感染対策前は、買い出しや外食をしたり、外出する機会もあった。	ホーム周辺の散歩は気軽にできる環境であり、2～3人でドライブに出かけたり、コロナ禍にあっても天候をみながら外出し、気分転換が図れるよう支援しています。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できることは少なく、トラブルのもとになりかねないため、できるだけ控えてもらっている。ほしい物がある時は、受診時に買ったり、職員の方に伝えてもらっている。 公衆電話があるため、電話代を所持している方はいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、自分でかけたり、かかってきたりと電話の取次ぎができるようにしている。手紙を書く人はいないが、あれば投函の援助もできるよにしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、レクリエーションの中で季節の花の工作をしたり、ぬり絵をして飾ったりしている。共同の空間でゆったりと過ごせる場所の温度、湿度、換気に努めている。衛生面では、トイレ、洗面所等、意識して衛生を保つようにしている。	利用者の使い勝手に配慮して造作を行い、日々の掃除は利用者も手伝って清潔に管理されて明るく広い空間で過ごすことができています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールにソファーを置いてあり、活用していただいている。独りになれる場所は居室だったりするが、気の合う方同士で話をしていただいている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活に合わせ、家族の写真だったり、生活感のある物を置いてもらっている。 気の合った方との会話ができるような席の配置にも気をつけている。	テレビや位牌を持ち込み、生活の場としての環境を整えて自由に過ごせるよう支援しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違わないよう印をつけたり、名札を張ったりと安全であるよう工夫している。 使用されている補助器具等の点検を行い、安全に生活が席るようにしている。		